

特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際予備審査機関)

出願人代理人 小笠原 史朗 あて名 〒 564-0053 大阪府吹田市江の木町3番11号 第3ロンヂェビル	受領 74.1.14 小笠原	殿
--	----------------------	---

PCT見解書

(法第13条)  
[PCT規則66]

発送日  
(日.月.年)

13.01.04

出願人又は代理人 の書類記号 PCT03-091	応答期間 上記発送日から 2 月以内
国際出願番号 PCT/JPO3/03927	国際出願日 (日.月.年) 28.03.03
	優先日 (日.月.年) 01.04.02
国際特許分類 (IPC) Int. Cl <sup>7</sup> H04N7/01	
出願人 (氏名又は名称) 松下電器産業株式会社	

1. これは、この国際予備審査機関が作成した 1 回目の見解書である。

2. この見解書は、次の内容を含む。

- I ☒ 見解の基礎
- II ☐ 優先権
- III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- IV ☐ 発明の単一性の欠如
- V ☒ 法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- VI ☐ ある種の引用文献
- VII ☐ 国際出願の不備
- VIII ☐ 国際出願に対する意見

3. 出願人は、この見解書に応答することが求められる。

いつ? 上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条 (PCT規則66.2(d)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限られることに注意されたい。

どのように? 法第13条 (PCT規則66.3) の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第62条 (PCT規則66.8及び66.9) を参照すること。

なお 補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2 (PCT規則66.4) を参照すること。補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則66.6を参照すること。

応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。

4. 国際予備審査報告作成の最終期限は、PCT規則69.2の規定により 01.08.04 である。

名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 畑中 高行 電話番号 03-3581-1101 内線 3580	5P 9468
--	--	---------

様式PCT/IPEA/408 (表紙) (1998年7月)

(添付用紙の注意書きを参照)

ATTACHMENT J

## I. 見解の基礎

1. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

☒ 出願時の国際出願書類

- ☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ、 出願時に提出されたもの  
 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの  
 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ、 \_\_\_\_\_ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項、 出願時に提出されたもの  
 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの  
 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項、 \_\_\_\_\_ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図、 出願時に提出されたもの  
 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの  
 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図、 \_\_\_\_\_ 付の書簡と共に提出されたもの
- ☐ 明細書の配列表の部分 第 \_\_\_\_\_ ページ、 出願時に提出されたもの  
 明細書の配列表の部分 第 \_\_\_\_\_ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの  
 明細書の配列表の部分 第 \_\_\_\_\_ ページ、 \_\_\_\_\_ 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である \_\_\_\_\_ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語  
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語  
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき見解書を作成した。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表  
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表  
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表  
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった  
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 図面の第 \_\_\_\_\_ ページ/図

5. ☐ この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

## V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-14	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	6, 7, 11-14	有
	請求の範囲	1-5, 8-10	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-15	有
	請求の範囲		無

## 2. 文献及び説明

請求の範囲 1-5, 8-10

文献1: JP 2001-169252 A (日本ビクター株式会社)  
2001.06.22, 全文, 第1-9図

Agree

には、入力されるインターレース信号の各フィールドを、フィールド間補間およびフィールド内補間の何れの方法でフレーム合成してプログレッシブ信号に変換すべきかを決定するフィールド補間方式決定装置であって、前記入カインターレース信号から生成したフィールド内補間画素と、当該インターレース信号の前後のフィールド内の画素とに基づいて画素レベル差分をそれぞれ検出する画素レベル差分検出手段と、前記画素レベル差分に基づいて、前記入カインターレース信号から生成したフィールド内補間画素と前記入カインターレース信号の前後のフィールド内の画素との相関を検出してマッチング係数と動き検出係数を生成するフィールド相関検出手段と、動き検出係数に基づいて、フィールド間補間方式とフィールド内補間方式とのどちらの補間方式を行うかを決定する補間方式決定手段とを備えるフィールド補間方式決定装置が記載されている。

文献2: JP 6-105292 A (ドイツエトムソン・ブランド ゲゼル  
シャフト ミット ベシユレンクテル ハフツング)  
1994.04.15, 全文, 第1-6図

Disagree

には、画素レベル差分を検出し、前記画素レベル差分に基づいて、N-1個のフィールド間相関判定信号を出力し、前記N-1個のフィールド間相関判定信号のパターンに基づいて、N個の連続するフィールドのそれぞれ連続する2つが同一フレームから生成されたかを判定するフィールド/フレーム相関判定手段が記載されている。

そして、文献1に記載されたフィールド間補間方式とフィールド内補間方式とのどちらの補間方式を行うかを決定するために使用する情報を、文献2に記載されたフィールド/フレーム相関判定手段とすることは、当該技術分野の専門家にとっては自明のものである。

補充欄 (いずれかの欄の大きさが足りない場合に使用すること)

第 V.2 欄の続き

請求の範囲 6, 7

文献 3 : J P 9-322126 A (日本放送協会)

1997.12.12, 全文, 第1-13図

には、当該技術分野における一般的技術水準を示す文献であって、2-3プルダウンと2-2プルダウンタイミングを、画素差分絶対値のフィールド内平均値を2-3プルダウンの場合は2フィールド間で、2-2プルダウンの場合は1フィールド間で算出し、当該画素差分絶対値のフィールド内平均値の最新値が、2-3プルダウンの場合は過去5フィールドで、2-2プルダウンの場合は過去2フィールドで最小になり、かつ、当該最小になる場合が、2-3プルダウンの場合は5フィールド前でも生じ、2-2プルダウンの場合は2フィールド前でも生じることにより検出する技術が記載されているが、2-3プルダウンの場合、6フィールド以上のフィールド間画素差分値のパターンを検出することによって判別すること、2-2プルダウンの場合、5フィールド以上のフィールド間画素差分値のパターンを検出することによって判別することは、国際調査報告で列記した文献、および見解書で新たに引用した文献3のいずれにも記載も示唆もされていない。

請求の範囲 11, 12

フィールド間差違判定手段が、さらに、1フィールド遅延入力インタレース信号が表す画像の明るさを表す信号レベルを検出する信号レベル検出手段と、前記信号レベルに値に基づいて、第1の閾値を変化させるか、または 第2の閾値を変化させることは、国際調査報告で列記した文献、および見解書で新たに引用した文献3のいずれにも記載も示唆もされていない。

請求の範囲 13, 14

フィールド識別信号を使用してフィールド間差違判定を行うことは、国際調査報告で列記した文献、および見解書で新たに引用した文献3のいずれにも記載も示唆もされていない。

## VII. 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 1 の「異なるフレームから生成された判断される場合には」は「異なるフレームから生成されたと判断される場合には」の誤記である。

請求の範囲 5 の「何れとも判定されない場合は」は「何れとも判定されない場合は」の誤記である。

請求の範囲 13 の「請求項 1 にフィールド補間方式決定装置」は「請求項 1 に記載のフィールド補間方式決定装置」の誤記である。

請求項 14 の「前期論理積回路」は「前記論理積回路」の誤記である。

特許庁長官 (特許庁審査官)	殿
1 国際出願の表示	
2 出願人 (代表者) 氏名 (名称) あて名 国籍 住所	
3 代理人 氏名 あて名	
4 補正命令の日付	
5 補正の対象	
6 補正の内容	
7 添付書類の目録	